

## 学生研究会の立ち上げと 北京語言大学訪問(2007.12.18)

column6

未来創造学部講師  
福山悠介

本年度より有志の学生が集い、東アジアの諸問題を研究する会を立ち上げた。参加を希望した日本人学生、中国人留学生、2+2留学生を混ぜたグループでの共同研究を進めている。初年度として、二つの研究成果を報告できた。

ひとつは、北京市の地下鉄問題を取り扱っている。中国において貧富の格差や環境問題など様々な問題が生じている現状において、なぜ北京市は非常にコストのかかる地下鉄の建設を大規模かつ急激に進めているのかという問題意識である。結論として、北京オリンピックという観点もさることながら、現在および近い将来における北京市の交通渋滞の深刻さから鑑みるに、地下鉄の整備が北京市の発展にとって欠かすことのできないインフラであるとの見解を得ている。

いまひとつは、中国の環境問題と対中環境協力について検討している。まず、中国の環境問題の中から、1. 大気汚染、2. 水質汚染、3. 都市ゴミ、4. 砂漠化問題を紹介し、中国政府の対策を述べる。その上で日本の対中環境協力を紹介し、日本も公害を経験した「先輩」として中国の環境問題に携わっていく必要性を述べている。結論として環境問題を市民レベルで取り組んでいく必要性を述べ、その点に関する日本の経験を取り入れるべきであると提言する。

この2グループは2007年11月29日から12月2日まで北京語言大学を訪問した。本学 RVESのプロジェクトと協力し、インターネットを利用した遠隔授業の新しい可能性を探るためである。2グループの研究成果を北京語言大学の学生たちにプレゼンテーションし、またディスカッションを行った。そしてその場面を筆者の担当する「東アジアの国際関係」の講義に同時中継し、受講者との間でも討論を行った。その上で、地下鉄グループは北京市の地下鉄および交通渋滞の現状について、また環境グループは北京市内における市民レベルの環境への取り組みについて、フィールドリサーチを行った。大学生たちへのインタビューも行ったようである。その結果をフィードバックさせ、さらなる研究の充実を努めている。

まだ初歩であることは言うまでもないが、今回の取り組みは大学での共同研究、インターネットを使った新しい学びの在り方、そしてフィールドリサーチという「理論と実践のサイクル」を実践できたと評価したい。また、この共同研究の体験が国籍を超えた友情を育んだことも、本研究会の成果として、高く評価している。

もちろん、本研究会はこれから先も継続していく。来年度は一年をかけて中国にいる学生とインターネットを用いて共同研究を行い、そして実際に顔を合わせての議論ができればと考えている。可能であれば韓国の提携校との間でもこのような取り組みを進めていきたい。こうした取り組みに参加している学生が、日中韓の交流の先頭に立ち、東アジアの未来を担ってってくれることを期待している。